

各位

2026年4月28日

株式会社イクヨ(証券コード:7273)

代表取締役社長孫峰

## 長崎県時津町にて次世代モビリティ「水素自転車」の試乗会を開催 —包括連携協定に基づき、住民が体感する脱炭素社会へ一歩を始動—

株式会社イクヨ(本社:東京都港区、代表取締役社長:孫峰)のグループ会社である YOUON JAPAN 株式会社(以下「YOUON JAPAN」)は、2026年4月27日、長崎県時津町において、水素燃料電池電動アシスト自転車(以下「水素自転車」)の試乗会を開催いたしました。本試乗会は、2026年1月8日に時津町と当社グループの間で締結された「水素サプライチェーン構築に関する包括連携協定」に基づく取り組みの第一弾です。

### ■開催の背景と目的

時津町とYOUON JAPANは、水素エネルギーを活用した「地産地消型エネルギーモデル」の創出による、持続可能なまちづくりの推進を目指しています。今回の試乗会は、包括連携で想定されている「次世代エネルギーを体感できる環境教育・啓発活動」の一環として実施されました。

皆様に、大阪・関西万博でも採用され、国内初の型式認定を取得したYOUON JAPANの水素自転車を実際に体感いただくことで、環境負荷の少ない新たな移動手段への理解を深めていただくことを目的としています。

### ■試乗会の概要と反響

今回の試乗会では、時津町の山上広信町長をはじめとする町職員の皆様、および各報道機関の皆様、YOUON JAPANの水素自転車を実際に体験いただきました。

試乗した関係者からは、水素を燃料とする電動アシストならではの「非常に軽快な漕ぎ出し」を評価する声が上がりました。一般的な電動自転車と比較しても遜色のない、あるいはそれ以上のスムーズな加速性能に対し、「軽い!」といった驚きの声とともに、その実用性の高さが確認されました。

### ■活用の方向性

時津町と当社グループは、今回の試乗の結果を踏まえ、以下のような具体的な活用シーンの検討を加速させてまいります。

- (1)公務における移動手段: 排出ガスゼロの特性を活かし、町職員の巡回や事務連絡用モビリティとしての導入検討
- (2)環境教育の推進: 水素生成器とセットで運用することで、次世代エネルギーの仕組みを学ぶ環境学習プログラムへの活用
- (3)災害レジリエンスの強化: 停電時などの非常用電源として水素を取り出し、活用するスキームの検証

### ■今後の展望

今後は協定締結1年目を目途に、水素自転車および水素生成器を活用した実証実験(PoC)を本格化させ、運用面や事業性の検証を進めてまいります。また、広告スポンサーやふるさと納税などの活用により、自治体の金銭的負担が発生しない持続可能なビジネスモデルの確立を目指し、将来的な「水素サイクルツーリズム」の検討や、災害時の非常用電源としての活用検証などを

段階的に進め、「時津町モデル」としての発信を行ってまいります。

当社グループは、本取り組みを通じて脱炭素社会の実現に向けた先進的なまちづくりに貢献してまいります。



(写真:左 時津町長 山上 広信殿、右 当社代表取締役社長 孫 峰) (設置された水素製造・充填一体機と個体水素カートリッジ)

#### 【関連URL】

長崎県時津町:<https://www.town.togitsu.nagasaki.jp/index.html>

YOUON JAPAN株式会社:<https://www.youon.jp/index.html>

#### 【関連プレスリリース】

- ・[長崎県時津町とイクヨグループ脱炭素社会実現に向けた「水素サプライチェーン構築」に関する包括連携協定を締結](#)
- ・[イクヨグループ、日本初の「水素アシスト自転車」が型式認定に合格](#)
- ・[YOUONJAPAN、水素アシスト自転車と水素生成機が2025年大阪・関西万博会場に導入](#)
- ・[日本初の「水素アシスト自転車」が型式認定に合格【YOUONJAPAN】](#)

以上

#### 【当リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社イクヨ ストラテジックデザイン部

Email: [mail-ikuyo@ikuyo194.co.jp](mailto:mail-ikuyo@ikuyo194.co.jp)